

- 1 課題名 くろしおふれあい講座
- 2 区分 県単
- 3 期間 平成18年度～平成20年度
- 4 担当 企画情報部(小川満也, 竹内照文, 小久保友義, 田所恵子, 田中千秋)

5 目的

和歌山県の海, さかなおよび漁業について話を聞くだけでなく, 見て, 触れて, 味わう「くろしおふれあい講座」を開設し, 漁業への理解と認識を深めるとともに水産物の消費拡大を図る。

6 成果の要約

(1) 対象コース

ア 体験コース

調査船の乗船体験や海洋観測, 定置網などの漁獲物の分類および魚介類を材料にした料理を体験する(メニュー:「海の調査体験」「さかなの分類体験」「海の幸料理体験」)。

イ 博学コース

水産試験場の元研究員や熊野世界遺産センター職員を講師として海洋, 生物および地域のことなど専門的に勉強する。

ウ 研究お手伝い隊コース

当场研究員が小学校の自由研究, 中学校・高校のクラブ活動や大学生の研究を手伝う。

(2) 成果の概要

ア 体験コース

「海の調査体験」は8月10, 11日に実施, 台風のうねりが少し残っていたなかでプランクトンの採集や採水などを体験, 家族やその友達など24名の参加があった。

「さかなの分類体験」は7月25日, 8月17, 18日に実施, 串本町檜野地区および有田市逢井地区の定置網で漁獲した魚介類を図鑑等で種類を検索, 家族や高校生など59名の参加があった。また, 12～2月に下里小学校, 串本西中学校および串本高校の合計112名で臨時開催を行った。

「海の幸料理体験」は7月30日, 8月6, 20日に実施, 東牟婁郡のおさかなママさんを講師に, 「姫ヒジキのおまぜ」「トビウオのつくね汁」「マアジとアカイカの唐揚げ甘酢あんかけ」を料理, 家族や高校生など50名の参加があった。また, 6月と2月に古座小学校と三尾川小学校の合計31名で臨時開催を行った。

イ 博学コース

8月4, 25日に, 「わかやまの水産」「海の保全是陸上から」「貝のみみつ」「熊野の世界遺産を知る」「栽

培漁業てなみに」「海のはなし」「さかなの生態」「ラムサール条約」について講演し, 130名の参加があった。また, 2月に串本高校の合計163名で臨時開催を行った。

ウ 研究お手伝い隊コース

夏休み期間中に, 小学生を含む2家族(6名)の自由研究を手伝った。

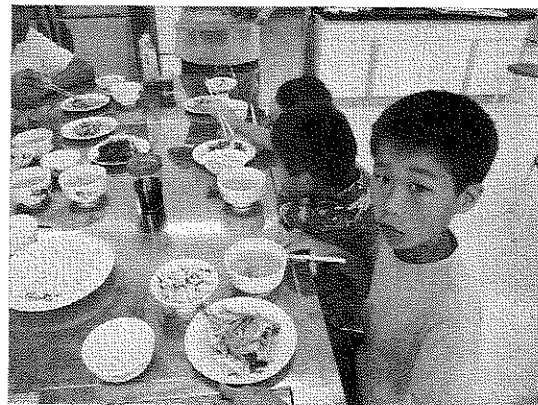
7 成果の取り扱い

(1) 成果の普及

各種の講座を実施し, 漁業への理解と認識を深めるとともに水産物の消費拡大を図った。

(2) 成果の発表

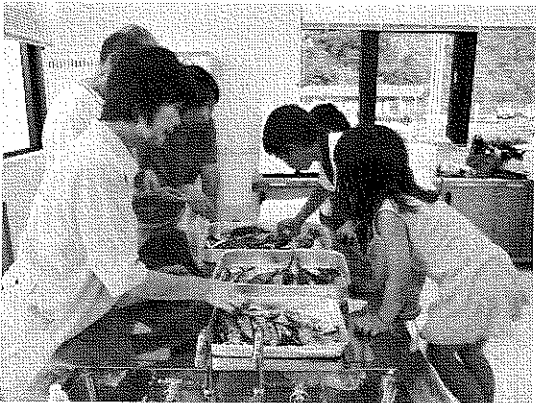
紀伊民報(8月19日, 24日), 南紀州新聞(8月19日, 24日, 29日, 9月5日)に紹介された。



海の幸料理体験
(姫ヒジキのおまぜ他)



海の調査体験
(調査船上)



さかなの分類体験
(仕分け作業)

「くろしおふれあい講座」の風景